

## 暮らしを支える税

日本国憲法は日本国民に対し三つの義務、「教育」「勤労」「納税」を課しています。そして、その中の一つ、「税金」について考えようという宿題が出されました。正直なところ、僕はこれまで税金についてあまり考えたこともなく、税金といえば「消費税」くらいしか思いつきませんでした。そしてそれは、買い物をしたときに余計に支払わなければならぬもの、とあまりよいイメージではなく、自分自身が税金によって何か恩恵を受けているという意識もありませんでした。

そこで、税金について改めて調べてみることにしました。税金は私たちが豊かで安心して暮らしができるように、いろいろな公共サービスを行うために使われています。歳出のトップは「社会保障」となっています。社会保障とは、医療、年金、福祉、介護、生活保障等のしくみということです。僕はふと自分自身が医療にかかった時のことを思い出しました。病院では診察を行い、薬を処方されました。支払いは200円です。僕が小さいときから医療費はいつも200円だけです。このことを、ずっと当たり前のことと思ってきましたが、ひょっとしてこのことが税金の使い道の一つ、社会保障なのでは？と思いついた時の領収書を見ってみました。領収書には支払い金額が200円と記載され、その下に「合計点数」というものが書かれています。母に領収書の見方を教えてもらった所、この点数を10倍した数字が実際に必要な医療費の金額とのことでした。つまり、実際には僕が支払った何十倍ものお金が必要になるということです。

私の住む佐倉市では「子ども医療費助成制度」というものがあり、中学三年生までの子どもは医療費の自己負担が200円のみで、それ以外は税金が負担してくれるということです。税金のおかげで私たちは安心して医療を受けることができているのです。

もし、税金のない世の中で病気になってしまったら、どうなってしまうのでしょうか。例えば、救急車を呼んでもお金がなければ乗せてくれません。病院に着いてからも診療費は莫大な金額になってしまいます。そしてそのお金が払えなければ医療を受けることもできません。適切な薬も処方してもらえません。つまり、莫大な金額を払うことができない人は、治療してもらえず死んでしまうのです。

今現在、僕はたくさんの人々が一生懸命働いて納めてくれている税金のおかげで、安心して生活できています。このことに、感謝しなければなりません。今は、税金を使わせてもらうばかりの僕も、将来は納税者となります。僕が働くことで一人でも多くの人を幸せにすることができるよう、一生懸命働きしっかりと税金を納められるようになりたいです。